武蔵野

武蔵野支局 〒180-0006
武蔵野市中町1の13の1 3F
電話 0422(51)3131
FAX 0422(51)3133
musasino@yomiuri.com
都内版編集室
電話03(3217)1465・1466
江東支局 電話03(3631)6116
立川支局 電話042(523)4477
ホームページ
www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
0120-4343-81

【広告】読売Palette
03(6272)9027
【折込チラシ】 0120-03-4343
【読売旅行】 03(5550)0666

■ あすの暦

11月18日（水曜日）
旧 10月4日<先勝>

通日 323
月齢 2.9
（正午）

＝東京標準＝
日出 6.20
日入16.32
月出 9.31
月入19.16
満潮 7.25
17.56
干潮 0.29
12.46
（大潮）

文人の武蔵野

言文一致体の先駆者

山田美妙 ①

山田美妙という文人の名をご存じでしょうか。言文一致体の先駆者として、二葉亭四迷とともに文学史にその名を残していますが、作品が後世の人に読み継がれているとは言えません。存命中は、大活躍する時期を経て、世捨て人のような晩年を迎えるに至ります。

人気凋落の理由については多くの人が言及していますが、当時の東京で圧倒的な発行部数を誇っていた新聞「萬朝報」に黒岩涙香によるスキャンダル記事が掲載されたこと、文壇の実力者坪内逍遥が「早稲田文学」誌上に感情的な記事を書いて追い打ちをかけたこと、美妙本人が元来文壇の人付き合いを得意としなかったことなどによります。今回とりあげる「武蔵野」は、そんな彼の出世作です。

1887年11月20日付の読売新聞（付録）に掲載された美妙斎主人の「武蔵野」

美妙こと山田武太郎は、1868年（明治元年）に神田柳町に生まれます。当時から町内にある柳森稲荷神社には「今を去る五百余年の昔この東京が武蔵野の原と称し」たという「御由緒」が記されています。18歳の年に尾崎紅葉らと硯友社を結成し、「我楽多文庫」を手写により執筆・編集・刊行。19歳で2冊の単行本（「新体詞選」「新体詞華・少年姿」）を刊行した才気溢れる文学青年でした。87年（明治20年）には、読売新聞が20歳の彼に原稿を依頼します。同年の11月20日、23日、12月6日に「読売新聞」（付録）紙上に「武蔵野」が言文一致体の「時代物語」として連載されるとたちまち世間を騒がせるほどの反響が寄せられることになります。

（武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍）

おすすめの1冊

「山田美妙 人と文学」

（山田篤朗著・勉誠出版提供）

山田美妙（1868～1910年）とその文学を、資料に基づき実証的に紹介しています。変質の過程を丹念に追うことにより、文壇を追われた作家ではなく、屈折をともないながらも終生書き続けた作家としての美妙像が浮かびあがる好著です。